令和４年度　社会科　授業改善推進プラン

大田区立都南小学校

１　昨年度の授業改善推進プランの検証

（１）　成果

・資料やグラフを正しく読み取る学習を繰り返したことで、情報を活かして自分の考えを書いたり話したりする児童が徐々に増えている。

・４、５、６年では、都道府県検定・県庁所在地検定の導入・実施により、都道府県の名称や地図上の位置を正確に覚えることができた。

（２）　課題

・中学年、高学年ともに、社会的事象について自分の生活と関連させながら考えることに課題が見られる。

・世界地図から各国の位置関係を読み取ることに課題が見られる。

・グラフや地図など複数の資料から総合的に情報を読み取ることについて課題が見られる。

２　大田区学習効果測定の結果分析

（１）　達成率（経年比較）

	令和４年度結果	令和３年度結果	令和２年度結果
第４学年	ほぼ目標値と同じである。		
第５学年	目標値よりかなり下回っている。	目標値より下回っている。（第４学年時）	
第６学年	目標値よりかなり下回っている。	目標値より下回っている。（第５学年時）	目標値より上回っている。（第４学年時）

（２）　分析（観点別）

①　中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・工場やお店など、身の回りにある施設のはたらきについて理解している。 ・地図記号の読み取り、火災発生時の通報のしくみの理解について課題が見られる。	・安全な暮らしのための工夫について、安全マップなどの資料から判断できていた。 ・お店の機能について理解しているが、実際の生活場面と結び付けて考えることに課題が見られる。 ・資料に着目して、社会的事象の関連を考え表現することに課題が見られる。	・学習には進んで取り組んでいるが、自身の経験と結び付けて考えることや興味をもって調べ続けることに課題が見られる。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・５年は、地図の読み取りについて定着が見られた一方で、浄水場やごみ処理場のはたらきの理解に課題が見られる。 ・６年は、世界や日本の国土についての理解に課題が見られる。	・５年は、資料が何を表しているのか、どんな社会的事象と関わっているのか判断することに課題が見られる。 ・６年は、資料からデータを読みとったり、社会事象の背景を考えたりし、それについての自分の考えを表現することに課題が見られる。	・身近なことについては関心が強い一方、学んだ知識を自らの生活に結び付けて考えることには課題がみられる。

３ 授業改善のポイント（観点別）

（1）中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・体験的な学習を多く取り入れ、自分の住む地域（街・大田区・東京都）の地図上の位置や社会的事象を捉えさせ、正確な知識・理解に繋げる。また、方位や地図記号の知識を確実に身に付けられるよう繰り返し指導する。都道府県・県庁所在地検定に向けて地図上で名称・位置を繰り返し指導する。	・自分の住む地域（街・大田区・東京都）の社会的事象から、自分の考えをもち、表現できるような課題を設定する。グラフや図、地図などの資料から特色を見出し、考察する機会を多く設ける。児童間の話し合いの機会を設定し、学び合いの場を設け、仲間の意見から考えを広げられるようにする。	・ＩＣＴで動画や資料を提示したり、新聞、ニュースなどの話題を取り上げたりして、社会的事象に興味・関心をもたせるような導入を実施する。 ・学習のまとめや見学の振り返りには、新聞作成を行う。その際に、自分の考えを書かせるようにする。

（2）高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・日本と関係の深い世界の主な国々の国旗や位置を、世界地図や地球儀を利用して継続的に指導する。 ・都道府県・県庁所在地検定に向けて、都道府県・県庁所在地の名称・位置を繰り返し復習する。 ・既習事項と取り上げながら学習を進め、積み上げてきた知識・技能を確認する機会を多く作る。	・調べたことをもとに、その内容をまとめたり考えを述べたりする活動を意図的に取り入れる。設定した学習問題に対する予想を書かせることを実施する。 ・学習した内容を身の回りの様々な事象と結び付けてとらえたり考えたりできるよう、既習の学習事項や他教科の学習内容、時事問題との関連などを意識できる発問、補助発問を取り入れる。	・日本の産業や歴史などは、児童によってはなじみが薄かったり実感をともなって捉えたりしづらい場合がある。視覚的に捉えられる写真や図表などの資料を的確に提示することでイメージをもたせ、学習意欲をもたせる。 ・新聞やニュースの情報を共有し、生活との関わりの範囲を広げていく。